

社会資本総合整備計画

事後評価書

令和07年01月08日

計画の名称	安心・快適な、賑わいのあるコンパクトシティ型地域拠点を支えるネットワークの形成促進													
計画の期間	令和02年度 ～ 令和04年度（3年間）										重点配分対象の該当	○		
交付対象	安城市													
計画の目標	平成22年度に策定した安城市都市計画マスタープランで定める「歩いて暮らせる集約型の市街地形成」、さらに平成25年度に策定した低炭素まちづくり計画で定める「都市の機能の集約を図るための基盤整備や都市機能の配置の適正化」をさらに推進すべく平成30年度に策定した第三次安城市都市計画マスタープランに基づき、本市4つの主要鉄道駅（ＪＲ安城駅、ＪＲ三河安城駅、名鉄新安城駅及び名鉄桜井駅）周辺を中心に、安心・快適な、賑わいのある集約型地域づくりを誘導するネットワークの形成促進を目標とし、都市機能や居住が高度に集積した地域拠点の形成を図り、第三次安城市都市計画マスタープランの目標である「みんなでまちをつくる！都市機能が便利に使える集約型都市づくり」の実現を目指す。													
全体事業費（百万円）	合計（Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ）		764	A	764	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （Ａ＋Ｂ＋Ｃ＋Ｄ）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		令和2		令和4
1	マチナカ居住の誘導（人/ha）：第三次安城市都市計画マスタープランに基づく地域拠点の形成促進により、マチナカ居住誘導区域内の人口密度を99.12人/ha（R2）から99.51人/ha（R6）に増加			
	マチナカ居住の誘導（人/ha）	9912人/平方キロメートル	人/平方キロメートル	9951人/平方キロメートル
	マチナカ居住の誘導（マチナカ居住誘導区域内の人口密度）（人/ha） 居住の集積			
2	マチナカ拠点の形成（％）：第三次安城市都市計画マスタープランに基づく地域拠点の形成促進により、安心・快適な、賑わいあふれるマチナカ拠点区域エリアカバー率を91.3％（R2）から95.3％（R6）に増加			
	マチナカ拠点の形成（％）	913%	%	953%
	マチナカ拠点の形成（マチナカ拠点区域における安心・快適な、賑わいあふれるマチナカ拠点エリアカバー率） 都市機能の集積			
3	所要時間短縮率（％）：整備される都市計画道路による所要時間を8%短縮			
	所要時間短縮率（％）	0%	%	8%
	路線の両端を起終点とした所要時間短縮率（（整備前の所要時間 - 整備後の所要時間）/ 整備前の所要時間）			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
道路事業	A01-001	街路	一般	安城市	直接	安城市	区画	改築	安城桜井駅周辺地区（（都）安城蒲郡線ほか 7 路線）	区画整理 A=93.8ha	安城市	■	■	■			500	-	
	A01-002	街路	一般	安城市	直接	安城市	区画	改築	安城南明治第一地区（（都）安城碧南線ほか 4 路線）	区画整理 A = 16.7ha	安城市	■	■	■			264	-	
											小計						764		
											合計						764		

事後評価		
○ 事後評価の実施体制、実施時期		
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期	
R4年度：事後評価を実施、R5年度：確定値によりフォローアップを実施 R4年11月：社会資本整備総合交付金評価検討会議における事後評価原案の審議 社会資本整備総合交付金評価委員会における事後評価原案の審議 R4年12月：事後評価原案の公表 R5年 3月：事後評価結果の公表 R5年 4月：フォローアップの実施	R4年度・R5年度	
	公表の方法	
	安城市ウェブサイトにより公表	
○ 事業効果の発現状況		
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	JR安城駅周辺や名鉄桜井駅周辺における土地区画整理事業や道路事業等を実施したことにより、駅周辺を中心に、安全・快適な、賑わいのある集約型地域づくりを誘導するネットワークの形成が促進された。	
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	交付対象事業の目標達成への効果発現状況について、上記目標を補足・補完する指標で整理する。 ■ その他指標 1．安全・安心生活エリアカバー率（％）：【現況値】97.8％（R1年度末） 【評価値】99.8％（R4年度）（確定値） 都市計画道路の整備事業により、緊急車両等の通行や安全な避難路の確保が進み、防災機能が向上したと考えられる。	
○ 特記事項（今後の方針等）		
【目標の達成状況】 定量的指標1マチナカ居住の誘導、定量的指標3所要時間短縮率が達成され、目標である「安全・快適な、賑わいのある集約型地域づくりを誘導するネットワークの形成」に向けて、事業が進んでいると考えられる。 【今後の課題】 引き続きコンパクトシティ型地域拠点を支えるネットワークの形成に向けた基盤整備を継続し、都市機能や居住の集積を計画的に図るとともに、地域の防災性や安全性の向上を図っていく必要がある。 【今後の方針】 安城南明治第一地区および三河安城駅周辺等において、土地区画整理事業と併せて街路事業等を実施することで、安全で快適なコンパクトシティの形成に向けた地区交通体系の整備促進を図る。		

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	マチナカ居住誘導区域内の人口密度）（人 / ha）		
	最 終 目 標 値	9951人 / 平方キロメートル	R6までの計画期間をR4までに前倒し、R5から別の社会資本整備計画と合わせて新計画をスタートさせたため、最終目標値をR4までの目標値に算定し直した（R4最終目標値9936）。安城桜井駅周辺地区の事業による、駅前広場及びこれに接続する幹線道路等の公共施設の整備、駅周辺の商業地の整備、交通体系の確立、居住環境の改善、及び安城南明治第一地区の事業によるＪＲ安城駅や安城市役所、商店街等の各都市施設間のアクセス性の向上と安全な歩行者空間の確保が進むことにより、マチナカ居住誘導区域内の居住人口が増加し、人口密度の増加として効果が発現している。
	最 終 実 績 値	10334人 / 平方キロメートル	
2	マチナカ拠点区域における安心・快適な、賑わいあふれるマチナカ拠点エリアカバー率）（％）		
	最 終 目 標 値	953%	R6までの計画期間をR4までに前倒し、R5から別の社会資本整備計画と合わせて新計画をスタートさせたため、最終目標値をR4までの最終目標値に算定し直した（R4目標値937）。都市計画道路の整備事業によって、区域内の都市機能施設は増加しているものの、既設の施設と重複する機能の施設が増加しているため、目標値には達しなかった。 なお、本計画策定時には当初現況値としてR2推計値91.3%を設定したが、その後、より正確な当初現況値としてR2実測値90.5%が算出されており、本事後評価では当初現況値から変更無しとして分析した。
	最 終 実 績 値	905%	
3	路線の両端を起終点とした所要時間短縮率（（整備前所要時間 - 整備後の所要時間） / 整備前所要時間）		
	最 終 目 標 値	8%	R6までの計画期間をR4までに前倒し、R5から別の社会資本整備計画と合わせて新計画をスタートさせたため、最終目標値をR4までの最終目標値に算定し直した（R4目標値5）。安城桜井駅周辺地区の都市計画道路の整備事業によって、榎前工業団地までの所要時間の短縮が図られた。ただし、安城南明治第一地区の都市計画道路は現在未整備だが、今後整備予定であり、整備が完了すれば、安城南明治第一地区からのルートにおいても所要時間の短縮が図られる。
	最 終 実 績 値	6%	